

種名	<u>シ ョ ウ リ ョ ウ バ ッ タ</u> <u>Acrida cinerea</u> 
分類	バッタ目バッタ科
形態的な特徴	オスは 45～52mm、メスは 75～82mm ほどのバッタで、メスの方が明らかに大きい。色彩はおもに緑色型と茶褐色型のほか、模様が入る中間型がいる。触角は短く、頭部が細く尖っている。幼虫などの小さな個体はオンブバッタに間違われることもあるが、オンブバッタの方が全体的にずんぐりしている。
分布	本州・四国・九州・沖縄に分布する。
生態的な特徴	8～11 月頃に成虫が現れる。草食性で、イネ科の植物などをよく食べ、オスは敏感で人が近づくと「キチキチ」と音をたててよく飛ぶ。メスは地面に腹部を突き刺して地中に産卵する。卵越冬で、翌年の6月頃にふ化する。
生息場所	背丈の低い草地でふつうに見られる種で、路傍や河原、墓地などでも見られる。明るい乾いた草地を好み、都市近郊の空き地などでも以前はよく見られた。草地のない所には生息しないがあまり茂った草原は好まない。裸地混じりの開けた草原などの環境がある場所であればふつうに生息している。
生息環境への配慮事項	本種は草刈などによってできた不安定な草地にも生息する柔軟性をもっている。そのため、このような環境があれば本種は生息できるが、逆に放置して、草丈が高いやぶのような状態になると生息しなくなる。また、除草剤が使用されたり、周囲の地表のコンクリート化が進むと生息できなくなってしまう。
その他	
引用文献： http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html を改変	